

## 日独シンポジウム 開催のお知らせ

### 「未来の子ども、子どもの未来： 経済危機後の子どもをめぐる政策と市民社会の役割」

子どもは将来の担い手です。家族および子どもに関する政策はここ数年、日独両国において人口動態の変化(少子高齢化)の文脈でよく議論されてきました。また、2008年秋からの金融危機の中で、子どもや子どもに関する政策への関心は、雇用不安や賃金低下という背景を踏まえ、政府による手当の増額が公約されるなど、注目が高まっています。経済危機の中で、子どもをとりまく政策と、私たち一人ひとりの市民の役割について、描かれる将来像とはどのようなものなのでしょうか。

本シンポジウムでは、日本とドイツの専門家が討議を行うことで、経済的な不安定が続く中で家族政策と子どもに関する政策の現状と、親のみならず市民社会に求められる役割について、日本とドイツの双方が示唆を得ることを目指します。ご関心ある皆様のご参加を歓迎いたします。

- 主催： 国際交流基金(ジャパンファウンデーション)、フリードリヒ・エーベルト財団  
日時： 2009年11月25日(水) 13:00～18:00 (12:30より受付開始)  
場所： 国際交流基金本部2階 JFICホール[さくら] (新宿区四谷4-4-1)  
東京メトロ丸の内線 四谷三丁目駅から徒歩5分
- 内容： セッション1： 子どもと家族を取り巻く社会政策 司会 本澤巳代子(筑波大学教授)  
報告者 マルティナ・ポイカー(ドイツ連邦家族・高齢者・女性・青少年省第六局)  
朝川知昭(厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室長)  
白波瀬佐和子(東京大学准教授)、前田正子(横浜市国際交流協会理事長)  
アンチェリヒター＝コルンワイツ(ニーダーザクセン州立健康協会・社会医学アカデミー)
- セッション2： 親と市民社会の役割の変化 司会 佐藤実千秋(朝日新聞社編集局紙面委員)  
報告者 安藤哲也(NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事)  
ハインツ・ヒルガース(ドイツ子ども保護全国連盟会長)  
アクセル・クライン(ドイツ-日本研究所専任研究員)
- パネルディスカッション： 未来のためにできること
- 使用言語： 日本語・ドイツ語(同時通訳)
- 入場無料 お申し込み： タイトルを「11月25日シンポジウム」として、氏名、住所、職業  
電話番号を明記のうえ、メール([oca@jpf.go.jp](mailto:oca@jpf.go.jp))またはFax(03-5369-6041)で  
お申し込みください。先着順100名まで。締切：11月18日(水)  
詳細：<http://www.jpf.go.jp/j/intel/new/0910/10-02.html>

**賞紙・誌にてお取りあげくださいますようお願いいたします。**

**ドイツから来日する報告者への取材も可能です。ご希望の方は、上記申込先に締切までに  
取材希望相手を明記し、お申し込みください。**

【お問い合わせ】 日本研究・知的交流部 欧州・中東・アフリカチーム 担当：後藤  
電話：03-5369-6071 FAX：03-5369-6041 E-MAIL [Ai\\_Goto@jpf.go.jp](mailto:Ai_Goto@jpf.go.jp)